

松蔭 校長室だより

一校長から保護者の皆さまへのメッセージです

2019年3月22日 発行

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井宣光

物満ちあふれど心貧しく、誤り高ぶる思いをおさめ、勇気と知恵とをわれらに与え、見守りたまえ。(聖歌 420 番)

「声」を出す勇気と自信

ある保護者の方が、娘が反抗期に入り、朝、起こそうとすると「うるさい」と口ごたえするようになった、と仰っていました。反抗期の子供は、言葉だけでなく身体全体で表現しますから、布団をすっぽりと頭までかぶり、母親に悪態をつく姿を前に、お困りの様子が目に浮かびました。私は、その生徒が最近、「おはようございます」と、校門で挨拶の声を返してくれるようになったことを思い出しました。そこで、挨拶の声と親への反抗が、時を同じくして起こっていることは、偶然かも知れないが、成長の一過程のように思う、とお伝えしました。声を出すことは、心の内にある「何かしらうごめくもの」を、良くも悪くも言葉という形にして、外の世界へ放出する作業ではないか、と思います。大人は大人らしく、子供は子供なりに精一杯、その作業を行います。反抗期の親子関係もそうですが、人間関係に不具合が起こるとすれば、感情を声に載せて話す言葉の選び方に、相手への一定の配慮があるかどうかによるでしょう。

コミュニケーション力を高め、発信力やら表現力、プレゼン力を身に付けることが、これから社会では必要だと言われていますが、それらの力の基盤を身に付けることが重要です。その基盤とは、声を出す勇気を持つことや、言葉を発する自信を育むことではないか、と思うのです。

いくつかのエピソードを紹介します。以前、カウンセラーの先生から伺った話です。一人の生徒が、面接の予約をせずに相談室に現れました。ソファに座らせてお茶を用意すると、無言のまま1時間程が経ち、やがて「がんばります」と一声残して部屋を出たそうです。また、ある英語の先生は、英文を暗唱している生徒の表情には、「自分が、英語をしゃべっている」と、何かしら自信が満ちあふれているように感じると、授業中の様子を報告してくれました。英語を声として発することで、「私にもできる」と、新たな自分を発見するのでしょうか。ちょっとした機会に、勇気や自信を手に入れながら、進んだり戻ったりする毎日の生活が、中高生の成長なのでしょう。

口数が少ない子供と向き合う時、大人は「何でもよいから、今、思っていることを話してごらん」と声掛けして、言葉を引き出そうとします。すると子供は、子供なりの言い方で語りはじめることができます。インターナショナルスクールでは、カリキュラムにドラマ（演劇）講座があり、その目的は、担当する役のセリフを考え、演じることを通して、生徒の独創性や協調性とともに自信を育むことだそうです。昨年、福島県にある英語村「British Hills（ブリティッシュヒルズ）」を視察した際、ドラマ授業を参観しました。生き生きとした表情で、意欲的に演じる生徒の姿が印象的でした。心理学のセミナーでしばしば行われるロールプレイ（役割演技）体験は、社会的な役

割を演じることで、問題点やその解決法を探ります。私の経験では、その役になりきり、語ることによって、「こんな自分もいるのだ」と、自分の別の姿を意識した記憶があります。

声を出す勇気や、言葉を発する自信は、気付かないうちに自然に生まれたり、人に促された結果であったり、訓練によって獲得できたり、と人それぞれでしょう。根拠のない勇気や自信は、昔から若者の特権です。幅広い分野の情報のインプットや多角的な視点をもつことで、身の回りだけでなく、大きな枠組みのなかで人の思いに寄り添い、その立場にも配慮しながら、知恵ある言葉を発したいものです。

「CEFR（セファール）」とは？

CEFR レベル		「何ができるか」 * 簡略化しています
C2	熟達した言語使用者	ほぼすべての話題を容易に理解することができます。細かいニュアンスまで正確に表現できる。
C1		広範囲にわたって高度で複雑な話題を理解し、適切な言葉で論理的な主張や議論ができる。
B2	自立した言語使用者	幅広い話題の複雑な文章でも主要な部分を理解できる。明確かつ詳細に意見を表現できる。
B1		身近な話題について理解し、自分の意思とその理由を筋の通った文章で簡単に説明できる。
A2	基礎段階の言語使用者	身近で日常的な事柄についての文やよく使われる表現が理解でき、簡単なやりとりができる。
A1		日常生活でよく使われる表現や言い回しを理解し、ゆっくりとあれば簡単なやりとりができる。

最近、英語力に関して CEFR（セファール）という用語が使われるようになりました。CEFR は “Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）” の略語です。上の表のように、レベル別に「何ができるか」が示され、文部科学省は、大学入試制度の改革の一環として導入することにしています。英検など民間検定の各級やスコアと対照できるようにし、英語力を評価するのです。A1 レベルから最高レベルの C2 までの 6 段階で示されます。日本の中高生でいうと、中学から英語学習を本格的に始めた中 2 生は A1。英検 2 級取得後に 1 年間の米国留学を経た高校生は C1 といったところでしょうか。

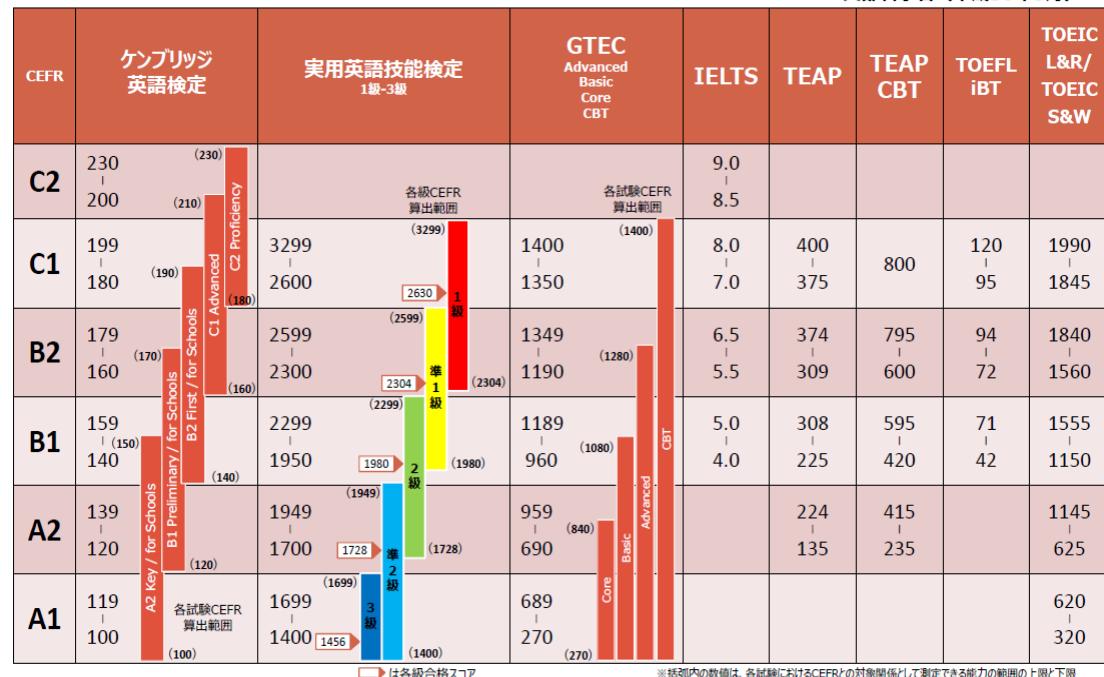
ヨーロッパでは、古くから国境をまたいだ移動や交流が盛んです。イスラエルギーのように複数の言語を公用語とする国もあり、スーパーマーケットに並ぶ陳列棚の商品の製品表示ラベルには、フランス語、ドイツ語、イタリア語などが併記され、英語も加えられていることもあります。母語以外の外国語の習得に熱心ですが、学習環境や語学力の評価が国によって異なることは、日本の英検が海外で理解されないことと同様です。そこで、47 か国が加盟する欧州評議会は、様々な言語の運用能力を示す尺度を定め、2001 年に CEFR を発表しました。

（裏面へ続く）

CEFRには、英語以外の言語の参考枠もあります。「英語はC1ですが、スペイン語はA2です」と、自分の語学力を説明できるのです。次の表は、文部科学省が2018年3月に発表した、各民間検定の各級やスコアとの対照表です。今年度、本校では、英検、GTEC、TOEICを利用しましたので、それらの結果をCEFRレベルと照らし合わせることができます。ただし、対照表のスコアが、毎年調整されてきたという経緯もあり、今後も最新の情報を入手した上で、これを活用したいと考えています。校長室だよりの前号でお伝えしているとおり、2020年度中学入学生から新たな教育課程を導入する予定です。在校生も今後の入学生も、中学卒業時にA1～A2(英検3級から準2級程度)、高校卒業時にB1(英検2級程度)以上への到達が目標です。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省(平成30年3月)



今年度の英検の結果

高校卒業式の数日後、卒業生から母校への感謝の思いを伝える手紙が届きました。英語学習についても触れ、次のように記されていました。海外留学の経験もなく、塾や予備校にも行かず、両親も英語は得意ではない。だが、6年間の学校の授業と自宅の勉強で、高3秋のTOEICでは、950点を取得できた。これは松蔭の英語教育のおかげだ、という内容でした。教員は人から褒めてもらう機会が少なく、しかも生徒からのお褒めの言葉ということで、嬉しい手紙をもらったと、先生方で喜び合いました。多くの生徒が、入学後に本格的に英語学習を始めるのですが、昨年から導入している英語入試の合格者には、小学校時代以来の英語学習の積み重ねがあります。その中から、今年度は中1生2名が英検2級に合格しました。この1年の努力の賜物だと思います。一方で、苦手意識を持ち始めた生徒もいるようです。ポスターには「英語に強くなる松蔭で」の文字が並びますが、まずは、英語を話すことは楽しい、と感じてほしいものです。さらに、松蔭で英語が好きになっ

た、英語を話せるようになったとの思いを、少しでも持ちながら卒業できるようにしたいと考えています。芽生える小さな自信は、どのような場面でも前向きに生きる勇気を引き出します。

さて、1月に実施した、英検、GTEC、TOEICの全校受験の結果ですが、今月に入ってから、通りすがりの生徒に「英検どうだった？」と尋ね回っているので、少々煙たがられているような気がしています。「合格しました」と報告に来てくれる生徒もいますが、今回もだめでした、という声も少なくありません。準1級にチャレンジした高校生も多くいましたが、2級から準1級へのハードルは非常に高いようです。英語の先生からは、採点手法や観点が少し変わったようで、厳しい採点になっているようだ、との感想を聞きました。目の前にある壁は高いものですが、3級、準2級、そして2級合格へと着実に階段を上り、さらに次のステップを目指してほしいものです。2018年度の、準2級以上取得者数は下記のようになりました。()内は、2017年度末の結果です。

<中学・高校> 1級 1名 (0) 準1級 5名 (5) 2級 117名 (97)
<中学のみ> 2級 7名 (9) 準2級 42名 (59)

新年度の取り組みと学年費について 年度当初のPTA集会等の予定

現在、各学年団で4月からの各プログラムの準備をしているところですが、大学新入試に向けたICTプラットホーム“classi(クラッシ)”導入(新高1、新高2)、GTEC受験(新中3～新高3)やオンライン英会話、英語スピーキングアプリなど、新たな教育コンテンツの導入を図る予定です。学年によっては、諸経費としての学年費の徴収額引き上げに踏み切らざるを得ない状況が生じています。あらためて学年ごとに会計報告をいたしますが、何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます。新年度当初の予定を掲載します。詳細は各学年からのプリントをご覧ください。

新学期当初の学校行事

- 4月8日(月) 中学入学式・高校入学祝福式(高3登校日)
- 4月9日(火) 始業式
- 4月10日(水) 授業開始
- 4月15日(月) 第1回避難訓練(昼休み)
- 4月19日(金) 生徒健康診断(授業なし)
- 4月20日(土) 入学感謝礼拝(中1、高校入学生)
- 4月26日(金) 文化祭(在校生) 4月27日(土) 文化祭(一般)

各学年PTA集会の予定

- (学年は新学年です。時間帯や会場などは予定です。詳細は、各学年より連絡があります)
- 中1 4月22日(月) 放課後(講堂)
- 中2 4月15日(月) 放課後(講堂)
- 中3 4月22日(月) 放課後(レオノラチャペル)
- 高1 4月19日(金) 午後(講堂)
- 高2 4月22日(月) ⑥校時(講堂)
- 高3 4月15日(月) ⑥校時(講堂)